

# みんなで助け合おうね

対象児:5歳児かえで組

作成者大石京香

作成日9月10日

ねらい：友達と協力しながら活動することを楽しむ。



ここ押さえててあげるね

こうやって書くんだよ

お掃除するよー！

振り返り:2学期が始まり、元気いっぱいなかえで組さん。夏休み中に会えなかった友達と久しぶりの再会を楽しんだり、会話が弾んでいました。お当番活動にも期待を持って取り組む姿が見られています。そんな中、ある日の給食後のこと「食器を給食室に返してきてくれる人？」と言うと、「〇〇はお当番だからやらない」という声が聞かれました。私は「これしてきて？」とお願いするのではなく、自分から進みますということ大切にしていきたい為、みんなに声を掛けています。私自身、今日も子ども達がお手伝いをしてくれることを期待していたこともあって、言われた時は少し残念な気持ちになりましたが「お当番でなくても手伝ってくれたら嬉しいし、助かるよ」と声を掛けると「分かった。お当番じゃなくてもお手伝いする！」と返ってくれました。その時に、このような言葉を思い出しました。幼稚園で、この様集会をする時にみんながいつも持っている「ほとけさまのおしえ」この本を子ども達と読んでいた時に「じぶんのことだけしかかんがえない人はこころがせまくさびしい」という言葉があったことを思い出し、子ども達にはこんなふうには育ってほしくないという願いもあり、みんなに話をしました。「困っている人がいたら声を掛けようね、助け合おうね」みんなで支え合える思いやりのあるクラスでありたいと思いました。その為にも、保育者の声掛けや言葉の掛け方で変わってくることを実感しました。どうして行動してくれないんだろうと考えるのではなく、どうしたら子ども達が積極的に行動出来るようになるかを考えながら、日々の保育を楽しみたいと思います。いろいろな活動を通して一人では難しかったり、出来なかったりすることも、友達となら出来た！という経験をし、協力し合うことや助け合うことの大切さをこれからも感じていけたらと思います。(協同性、道徳性・規範意識に芽生え、社会生活との関わり、言葉による伝え合い)